

第220回特別例会「ハノイ&サイゴン千里会長と交流会 ゴルフ、観光組に分れベトナム満喫」

経済人クラブ（生田圭一会長）は、年に1度通常例会による講演形式とは違った特別例会を実施しているが、今回の第220回特別例会は、創立55周年を記念して11月22～26日の日程でベトナム・ハノイを訪れた。

11月23日には交流会として、当クラブ会員が2年前にオープンしたお好み焼きと和食の店「鉄板」で、ハノイ千里会の狩野浩二会長、サイゴン千里会の小島秀会長、校友会本部から芋縄隆史副会長らをお迎えし、事業部からは現地校友の視察として、松永明部長、古淵孝仁副部長、廣内良明副部長にもご参加いただき、事務局を含め総勢23人で交流会を開催した。

当クラブの志水利達副会長の開会挨拶の後、ハノイ千里会の狩野会長、サイゴン千里会の小島会長の挨拶、校友会の芋縄副会長の乾杯で始まり、ベトナム経済をはじめ仕事の話や大学の話など、様々な話題で参加者全員が各テーブルで大いに盛り上がった。その後、仁井ひろみ副会長の閉会挨拶があり、校友会事務局の奥田恵造課長のリードのもと、逍遙歌の歌声がハノイの地に鳴り響いた。

ハノイでは、現地企業の視察の他、観光組は世界遺産のチャンアンクルーズやホーチミン廊・一桂寺見学、古都の観光などを楽しみ、ゴルフ組は大自然の中で2日間プレーをし、参加者全員がベトナムを満喫した。

最終日は、現地深夜0時40分の出発予定で、日本には6時40分の到着予定であったが、天候の影響で搭乗予定の飛行機が到着せず、急遽8時間遅れての出発に変更され、ハノイ国際空港の搭乗口で10時間程待機することになり、待合室の椅子で一夜を過ごすパニングもあったが、無事に帰国することができた。参加者全員がとても満足した楽しい旅であった。

（平成6年法学部法律学科卒 副代表幹事 村上 康司）



TOPICS

秋のゴルフコンペ 台風被害乗り越え18人が参加し熱戦



経済人クラブ（生田圭一会長）秋のゴルフコンペが、恒例の名門茨木カンツリー倶楽部東コースで、9月13日に18人の参加で開催された。

9月4日の台風21号の影響でゴルフ場も被害を受け、開催が危ぶまれたが、ゴルフ場スタッフさんたちの懸命な復旧作業のおかげで、また、天候にも恵まれ楽しくプレーをすることができました。開催の賛否はありましたが、関西を元気にする気持ちも込めて開催をしました。

優勝は岩崎圭祐氏、準優勝は秋葉明氏、3位は富永昌雄氏でした。

（平成4年文学部卒 副代表幹事 横田 英哲）

春のゴルフコンペ 春風吹く中、12人が参加し平成最後の熱戦

経済人クラブ（生田圭一会長）春のゴルフコンペが、恒例の名門茨木カンツリー倶楽部西コースで、平成31年3月28日（木）に新規参加者を含め12人の参加で開催されました。

前日の天気予報では天候の崩れの懸念がありましたが、春風の吹く中、時折太陽が顔を出し、平成最後のゴルフコンペにふさわしい激しい熱戦が繰り広げられました。

今回は新規参加者をお迎えし、また、参加者の年代も幅広く、ベテラン、中堅、若手の世代を超えて楽しくプレーできたコンペとなりました。優勝は榊原充俊氏、準優勝は生田圭一氏、3位は秋葉明氏でした。

（平成18年経済学部卒 幹事 今村 聡）



事務局 〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学100周年記念会館内 （株）関大パンセ 気付 関西大学経済人クラブ
TEL.06-6368-1054 FAX.06-6368-1976

KANSAI Univ. Keizaijin Club

2019年版

発行日：2019年5月1日（年1回発行）発行：関西大学経済人クラブ 電話：06-6368-1054
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学100周年記念会館内（株）関大パンセ 気付

KANSAI UNIVERSITY

KEIZAIJIN CLUB 2019 News

It started aiming to attempt cultivating friendship in November,1963

- 第218回例会
- 第219回例会
- 第220回特別例会
- 第221回例会

- 秋のゴルフコンペ
- 春のゴルフコンペ
- 若手会 ジェットスキー開催
- 若手会 新年会



第220回特別例会
「ハノイ&サイゴン千里会長と交流会」
（関連記事 裏表紙参照）



KANSAI UNIVERSITY
関西大学経済人クラブ
<http://ku-keizaijinclub.jp/>

第218回例会「大リーグに学ぶ勝つための組織と人材育成」タック川本氏の講演を聞く



経済人クラブ（生田圭一会長）第 218 回例会が、5 月 14 日に大阪新阪急ホテルで開催され、6 人の来賓の方々と、新入会員 1 人、特別参加者を含め総勢 61 人が出席した。
生田会長挨拶の後、年度最初の例会のため総会を開催し、前年度事業報告・決算報告ほかの総会議事が審議され、すべての議案が原案通り承認された。
続いて、学歌斉唱ののち、早速、第 1 部講演に移り、講師に国際ビジネス&スポーツアナリストのタック川本氏を迎え、同氏から約 1 時間に亘り「大リーグに学ぶ勝つための組織と人事育成」というテーマでお話し頂いた。

タック川本氏は、「なぜ成功するのか?」「なぜ二流三流で終わるのか?」を、ビジネスコンサルタントとしてロサンゼルス・エンゼルス等のメジャーリーグで活躍された経験を踏まえ詳しく説明された。また、タック川本氏は日本では吉本のタレントもされているとのこと、ユーモアを交えた語りは参加者の興味を強く引き付けた。

印象的だったのは、メジャーリーグにおいて選手に求められているものは、「人間性」であるということ。技術や知識はあって当たり前だし、仮に技術や知識があったとしても人間性がなければ、それは何の意味も持たないものとなる。例えば、脱落していく選手は、「生意気」だったり、「天狗」になったり、「協調性」に欠けたりするという。

メジャーリーグは、アメリカにおいては単なる競技ではなく、ロールモデルである。例えば、お金をいっぱい稼いで贅沢をするのではなく、寄附をしたりする。そういった社会性が求められるのである。ライバルは敵ではなく、ライバルがいるからこそ、自分が成長できるのである。他人に対する思いやりや感謝ができる人間性のある選手が真に成功する選手であることを説明し、成功の条件として次の 5 つの項目を挙げられた。「拒否されてもひるまない」「高い理想・理念・夢を持つ」「自分が思った以上の心遣いができる」「自己満足をしない」「収入の何割かを社会のために使える」

最後に、ジョン・F・ケネディが好んで引用した諺、「ものをなくせば小さく失う。信用をなくせば大きく失う。勇気をなくせばすべてを失う」を紹介して講演を結んだ。志水利達副会長から謝辞を述べ、講演会を終了。

その後、講師を囲んでの懇親会では、池内理事長、芝井学長、寺内校友会会長のご挨拶、森本名誉顧問の乾杯の後、新入会員及び特別参加者の自己紹介、次々回第 220 回特別例会の案内、ゴルフ部会からの案内、若手会の活動報告、ボクシング拳四朗関大後援会の案内などが続き、懇親会は大いに盛り上がった。（平成 11 年総合情報学部卒 幹事 古屋敷 博文）



YOUNG CLUB

若手会主催のジェットスキー&バーベキュー開催



経済人クラブ若手会主催のジェットスキー&バーベキューが平成 30 年 7 月 21 日に久美浜湾にて開催された。
今回の企画は、経済人クラブ本会の先輩方にも多大なるご協力をいただき実現した。
総勢 15 名の参加者が集い、普段なかなか体験することができないジェットスキーに興奮し、自然に囲まれた中で美味しいバーベキューを堪能した。
海もとても美しく、泳いでいる魚が目視できるほどであり、都会の雑踏から離れた非日常の一日を皆で過ごすことができた。

経済人クラブ若手会は、今後も普段なかなか体験できないような催しを企画し、若手校友が気軽に集える場を作っていきたいと考えている。

若手会主催の2019年新年会開催 各人の自己紹介で相互理解深める

経済人クラブ若手会主催の 2019 年新年会が、1 月 31 日に大阪ミナミのニュージャパンビル内にある「Rooftop Bar OO」で開催された。

会場は、昭和 27 年の設立以来、サウナ、宴会場、カプセルホテルとして長年大阪人に親しまれてきた複合施設で、今年 3 月末で惜しまれつつも全館営業終了となってしまう大阪ミナミ道頓堀のニュージャパンビル内にある。

今回は、過去複数回参加の会員と新規参加者を交えた、活気あふれる若手 15 人が集い開催された。自己紹介を一人一人行い、携わる仕事の内容や趣味にまつわる話、時には参加者から質問があるなど、相互の理解を深められる内容となった。

また、2 次会は本会代表幹事の本間先輩も駆けつけて下さり、大阪アメリカ村にあるプールバーにて開催。多国籍な空間を大いに満喫しながら、各会員が先輩の話に聞き入り若手参加者にとって充実した一日となった。

（平成 18 年経済学部卒 幹事 今村 聡）



第219回例会「日本経済の現状と今後のゆくえ」岸博幸慶應義塾大学大学院教授の講演聞く

経済人クラブ（生田圭一会長）第 219 回例会が、9 月 10 日に来賓 6 人、新入会員 3 人、ゲスト 26 人を含め総勢 93 人が出席して大阪新阪急ホテルで開催された。
学歌斉唱、生田会長挨拶の後、早速、第 1 部講演に移り、講師に慶應義塾大学大学院教授、エイベックス・グループホールディングス(株)顧問の岸博幸先生を迎え、1 時間超に亘り『日本経済の現状と今後のゆくえ』というテーマでお話いただいた。

岸先生は、通商産業省（現経済産業省）に入省後、MBA を取得した異例の経歴の持ち主であり、官僚出身ながら「脱藩官僚」を掲げ、テレビをはじめとして各マスメディアで活躍されている。テレビでは 3 割しか語れない日本経済の真実にフォーカスし、ご講演いただいた。

社会保障制度の破綻など日本経済が抱えている課題等を具体的な数字や、わかりやすい例を挙げて紹介したうえで、その課題を解決するためには、企業、特に中小企業のイノベーションの創造が重要であることを説明された。

岸先生は、大阪府・大阪市特別顧問にも就任されており、大阪の文化に精通されているが、大阪人が持つクリエイティビティさ、空気を読むことができる気質はイノベーションを創造するのにはうってつけのものであるということを紹介して講演を結ばれた。仁井ひろみ副会長から謝辞を述べ、講演会を終了。

その後、講師を囲んでの懇親会では、北田伸治法人常務理事、芝井敬司学長のご挨拶、寺内俊太郎校友会会長の乾杯の後、新入会員及びゲストの紹介、次回第 220 回特別例会の案内、ゴルフ部会や若手会からの活動報告などが続き、懇親会は大いに盛り上がった。



当会出席者のほとんどが、関西において事業を営んでいるということもあり、日本経済の課題を解決するイノベーションの創造の旗振り役であることを再確認するとともに、ひいては、世界の経済・環境を持続可能なものとするための一翼を担うことを決意することができたという意味で、大変有意義な会であった。

（平成 17 年商学部卒 若手会幹事 辻 秀明）

第221回例会「日本一のチームを作る西谷流マネジメント」西谷監督の講演を聞く

経済人クラブ（生田圭一会長）第 221 回例会が、2 月 4 日に大阪新阪急ホテルで開催された。出席は来賓 6 人、新入会員 1 人、ゲスト 11 人を含め総勢 65 人だった。

学歌斉唱で開会し、生田会長の挨拶の後、早速、第 1 部講演に移った。
今回は、講師に大阪桐蔭高等学校・硬式野球部監督としてご活躍の西谷浩一先生を迎え、1 時間に亘り「日本一のチームを作る西谷流組織マネジメント」というテーマでお話いただいた。

関西大学の校友でもある西谷先生は、硬式野球部に在籍の際には 19 年ぶりのリーグ優勝と全日本大学野球選手権大会準優勝に貢献。4 年時には主将を務め、100 人以上の部員をまとめあげた。

その後、大阪桐蔭高校で、硬式野球部の指導者としてコーチ・監督を歴任される。就任当時、まだまだ新設校のチームであったところを、わずか 10 年で誰もが知る日本一の高校野球チームに育て上げる。昨年の 2018 年には春と夏の甲子園、さらに秋の国体をも制覇。史上初の「三冠」を達成されたことは記憶に新しい。

しかし、先生のお話を聞くと、栄光への道のりは決して簡単なものではなかった。そこに至るまでに続いた苦労と挫折、そして、その困難をいかに乗り越えてきたかを、自らがプロ野球界に輩出された選手のエピソードなどを交えながら具体的に説明された。

大切な人（選手）を目的地（甲子園）に届けることがコーチの仕事。チームを育てることは聴くことから始まり、聴くことはやがて選手自身が考えることに繋がる。これらの理念の下に、試合数を増やして選手全員にチャンスを与えることで、控え選手も一丸となった強いチームが作られていく。

そして、監督自らが「日本一になる」と宣言することでチームの目標を明確にし、チームに推進力を持たせた。先生は、最後に「野球少年の甲子園への想いはこれからも変わらない」と締め括られた。

本間敏司代表幹事の謝辞をもって講演会を終了。

その後、講師を囲んでの第 2 部懇親会では、池内啓三理事長、芝井敬司学長、寺内俊太郎校友会会長のご挨拶、森本靖一郎顧問による乾杯の後、新入会員及びゲストの紹介、ハノイ（ベトナム）にて開催された第 220 回特別例会のムービーによる報告、ゴルフ部会と若手会による報告と案内などが続いた。

大いに盛り上がった懇親会は、仁井ひろみ副会長の挨拶により閉会を迎えた。
今回、西谷先生の持つ、組織を築き強固なものに作り上げていく手腕や、人と向き合いながら育て続ける求心力についてご教示いただいたことは、経営者が多く在籍する当クラブにおいて非常に有意義なものとなった。

（平成 12 年法学部卒 山下 雅也）

